

生活と文化に深く関わってきた竹



(三ガタケ 別名マダケ)
 昔竹は真竹の真味で竹の正産を称する名称である。種は表皮の光沢が強く曲げ強い。割そぎも容易である。数寄屋建築をはじめクラフト・工芸品など竹材として利用されている。茶杓・筆筒・和傘・提灯・竹刀・弓・尺八・笙・物差・舞臺の輪・扇・籠・籠ざる・様子・玩具・竹の皮パレン等にも用いられる。



孟宗竹(モウソウチク)
 竹材は、マダケやハチクとほぼ同等品質は劣る。生食・缶詰用として大量に用いられる。床柱・竹垣・割箸・扇子・団扇・扇・御簾・花籠等にも用いられる。



亀甲竹(キッコウチク)
 モウソウチクの変異で稈の下の方の節が電光状になり節間が一節おきに交互に膨出し亀甲状になった奇形。建築材としては床柱・茶道口軒等に用いる。庭園(玄関前・坪庭・前庭)や公園に群植する。



台湾真竹(タイワシマダケ)
 異名のケイチクは、中国名の桂竹による。中国本土南部地方及び台湾原産。マダケに似ているが、竹の皮の黒斑が少なく、南方産ではあるが耐寒性があり、日本でも栽培される。時には野生化している。繊維が長いので竹の繊維に好適であり、工業的にも多く利用される。



黒竹(クロチク)
 シロチクは、黒竹の色が黒色のことからいう。中国原産で北海道南部以南の各地に栽培される。種は初めは緑色であるが、翌年には紫黒色になるが紫黒色の細点が密布する。竹種はつり芋、数寄屋の戸当り・庭下地・天井廻り縁・手摺等に用いられる。觀賞用とするには種の黒色の強いものと種や枝が細く美しい。



雲紋竹(ウンモンチク)
 異名丹波斑竹。稈の表面に多数の黒黒色、雲紋状の斑紋が、節が生えてから二年目くらいに生ずる。種の太さや大きさは、ハチクと変わりはない。筆筒・数寄屋建築の欄干・床柱・茶道口方立等に用いる。

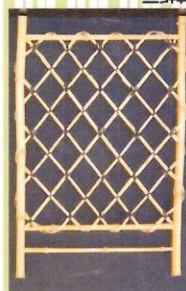
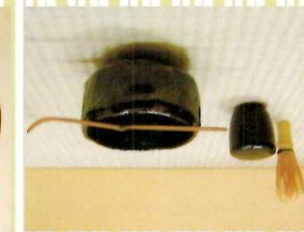
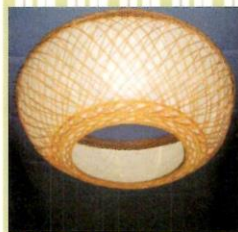
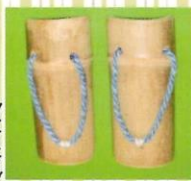


四方竹(シホウダケ)
 シホウチクは、稈の形にもとづいて名づけられた。角の丸い四角形をしており、稈面に鋭く小さいどげが散在し、ざらついている。節は美しく隆起している。色は鮮緑でことに冬期の緑が美しい。中国原産。日本では觀賞用として関西地方以西で茶庭や路地庭、玄関前アプローチとして寄せ植えや占植される。



阿亀笹(オカメザサ)
 阿亀笹(オカメザサ)は浅草の西の市でおたふくの面をぶらさげる材料になったことから名づけられた。分類の面でこの竹の皮が早く落ちることから小形のタケ類にはいるが一般的には、笹として扱われる。年中緑で美しく耐乾性もある。

- モウソウチク 孟宗竹
- ハチク 淡竹
- キッコウチク 亀甲竹
- ウンモンチク 雲紋竹
- キンメイモウソウチク 金明孟宗竹
- クロチク 黒竹
- ニガタケ(別名マダケ) 苦竹
- ヒメハチク 姫淡竹
- シホチク 皺竹
- ナリヒラダケ 業平竹
- キンメイダケ 金明竹
- ヤシャダケ 夜叉竹
- カシロダケ 皮白竹
- トウチク 唐竹
- ホテイチク 布袋竹
- シホウダケ 四方竹
- タイワシマダケ 台湾真竹
- オカメザサ 阿亀笹



遊び・スポーツ用竹

住まい用竹

第136回 企画展示

生活を潤す自然の素材
 竹とくらし

開催期日 平成17年4月28日(木)~7月3日(日)

開館時間 午前9時~午後4時30分

休館日 期間中無休

入館料 大人/100円 児童・生徒/50円

酒田市立資料館

住所 酒田市一番町8-16
 TEL 0234-24-6544



浄徳寺 庭園

日本人の生活の中には、自然素材を巧みに利用した道具類が数多くありますが、その中でも、特に竹を利用したものが数多く見られます。

竹は日本の隅々に生い茂っており、加工しやすくまたしなやかであるなどというすぐれた特性を持つことから、古代から人々の暮らしに生かされてきました。

また、人々は竹や笹に強い生命力を感じとり、そこに神霊が宿るとする伝承を信じて、祭りや民俗行事等にも竹を数多く利用してきました。

今回は、生活の道具、美術工芸品、玩具、民俗行事等にさまざまに生かされている竹を取り上げ、くらしとの関わりをみていきます。

開催にあたり、多くの方々から資料提供をいただいたことに感謝申し上げます。



〈月の雫〉 島中胤山作



〈加茂川響〉 島中胤山作



〈花巻〉 島中胤山作



〈重切〉 島中胤山作



〈茶さじ〉 須田古龍刻竹

個人蔵



〈夕バコ入れ〉 須田古龍刻竹

個人蔵



〈キセル入れ〉 須田古龍刻竹

個人蔵

協力いただいた方々
 桜林獅子踊保存会
 長 庄 樹 氏
 林 弘 一 郎 氏
 今 長 庄 樹 氏

民俗行事と竹



上/門松 下/熊手



十王堂のえんま様のお祭



桜林獅子踊

桜林の獅子踊は口碑で200年前から踊られたといわれ、五穀豊穡と無病息災を祈る信仰的な要素が強い。近年までは村内の家々を回っていたが、人手不足のため、今は、神社と寺で行っている。8月13日に鎮守山神社で行い、14日は曹洞宗の林秀寺で踊る。そして、17日には再び神社と林秀寺で踊る。この踊りの用具には、竹を使っているものが3つある。「弓」「梵天」「腰飾り」である。腰飾りは、1.2メートルの篠竹を紙で包んだもの12本を3段に止め、5色の色紙を張っている。これは、他地域の獅子踊りの衣裳に見られない、美しいものである。



ぼんてん 相懸

個人蔵



広野の虫送り

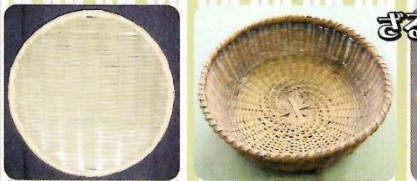
農業が使われなかった昔は、稲を虫の害から守る行事が全国的に行われていた。しかし、近年では農業による虫の駆除により、「虫送り」等の儀礼行事は、必要とされなくなった。酒田市の広野地区では、一時休止されていたこの「虫送り」の行事を保存会の人々の手により、昭和57年から復活させ、地域の民俗行事として毎年行われている。この「虫送り」は、かやと竹を組合わせて船をつくり船に厄送りのわら人形と虫送り花を入れ、虫を封じこめるというおまじないで真綿で作ったくもの巣を立てる。作業が終わると神社で祈禱し、お祓いをする。その後、村内を練り歩く。以前は、船を川に流すことにより、災厄を送るという意味があったが最近では公民館の広場で、頭上にかかげた酒樽を十数人が交互に虫たたき棒でたたくことにより、農作業につく害虫を集団の力を持って除去することができたとして、この行事を終わっている。

食生活と竹

農具・漁具と竹



かご



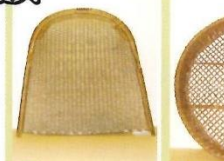
ざる



たる



農具



箕



ふるい



苗とりかご



野菜かご



汽車かご

漁具



鮫笥



ほでかご



背負い魚かご

編みの種類



ござ目編み



松葉紐編み



網代編み



四ツ目編み



菱四ツ目編み



六ツ目編み